




マナビっつうしん

第 32 号

令和5年1月25日(水)

コミュニティスクールははじめの一步・次の一步

令和4年度学社連携・協働フォーラムから

令和4年度学社連携・協働フォーラムは、3年ぶりに参集で開催（講演のみ後日 YouTube 限定配信も併用）できました。当日は、長野県総合教育センターに100名近くの方にお集まりいただき、コミュニティ・スクールについて講演と意見交換を行いました。講演の内容や意見交換の様子、いただいた感想などを紹介したいと思います。（は寄せられた感想から抜粋したものです。）

【講演1】

「未来をともに創るこれからの学校と地域

～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動～

文部科学省 総合教育政策局地域学習推進課 宮崎 雅史 さん



【コミュニティ・スクールが必要とされる背景とは？】

複雑に変化する社会情勢の中、社会全体で子どもたちの学びや育ちを支えていくことが求められています。その仕組みの1つがコミュニティ・スクールです。

地域における 教育力の低下

- 少子化・人口減少・情報化等による社会構造の急激な変化
- 都市化過疎化・地域における地縁的なつながりの希薄化
- 家庭の変化・地域の人間関係の希薄化

学校を取り巻く問題の 複雑化・困難化

- 保護者の学校に対するニーズの多様化
- 生徒・児童指導に関わる課題の複雑化
- 教員不足、教員の働き方改革の必要

新学習指導要領の理念 「社会に開かれた教育課程」

- ① 教育課程を介して**目標を学校と社会が共有**
- ② 子供たちの育成すべき**資質・能力を明確化**
- ③ **地域の人的・物的資源の活用**、社会と共有・連携しながら、開かれた学校教育を展開

学校だけでなく、社会全体で子供たちの学びや育ちを支えていくことが求められている

地域と学校の連携・協働体制を構築することが必要

【「協働」の重要性】

“お願いされたからやる”という「支援」から、地域・保護者・学校が対等なパートナーとして学校運営に参画する「協働」へと変えていくことが大事です。そのために、大切なのが目的を共有することです。運営協議会・運営委員会等で、幅広い地域の皆さんが熟議を重ねることで、地域・保護者・学校それぞれが当事者意識を持ち、学校運営に自主的に参画することにつながります。

コミュニティ・スクールを導入することが目的ではなく、コミュニティ・スクールの仕組みを生かして大人や学校、地域が変わっていくこと、これからの社会を担う子どもたちが「真」に生きる力を身につけること、そして、誰もが持続的な幸せを感じることができる社会を「当事者」として創ること、これらを実現することが、コミュニティ・スクールを導入することの目的である。

平成27年12月中教審答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」より

学校も何かと課題があるかと思いますが、地域側にも担い手については課題があります。文化の継承や子どもたちの生きる力を身につけるために、地域と学校が連携していくことは確かに必要だし、この仕組みを利用して活性化できればと思いました。

責任と権限を考えたことがなく、言われるままというか不都合なところへの手助けしか考えていませんでした。しっかり熟議を重ねてともに成長したいと思いました。

【講演2】

「これからの時代の学校

～コミュニティ・スクールの可能性～

文部科学省CSマイスター（山口県地域連携教育推進協議会 顧問）

小西 哲也 さん



【子どもたちに「生きる力」を】

1996年の中教審答申で「生きる力」の獲得を実現するために、コミュニティ・スクールとなるよう努めることが謳われています。生きる力を身につけるために、社会に開かれた教育課程を実現しなければならない。その成果が求められています。学校や教育委員会は、社会に開かれた教育課程について、分かりやすく地域に知らせていかなければいけません。分かりやすくまとめると次のようになります。

- 1 地域の担い手を育てるという使命を授業や行事を通じて地域と共有する。
- 2 人や社会とかかわりあう力を授業等の教育活動において明確化し、地域と協働して育む。
- 3 地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携等とおして地域の未来を担うという願いを共有する。

「生きる力」が学習指導要領のテーマに30年間掲げられていることの意味を考える必要があります。

【大事なのは自制心】

Society5.0 を迎え、子どもたちにはどんな力が必要でしょうか。AI だけではできないこと。「人とつながり、人に自分の思いを伝えたい」その力をどうつけるかが大切です。人間の成長には認知スキルと非認知スキルの両方が必要です。大人になって活躍の度合いに差が出るのは「非認知スキル」が育っているかどうかです。そして、この非認知スキルの真ん中にあるのが「自制心」。自分を律しながら他人を思いやる豊かな人間性が「自制心」です。これは、他人と一緒にいることで、他人に認められることで身につきます。これを実現するためには地域の人の力が必要です。つまりコミュニティ・スクールにできることです。

認知スキル

○学力 ○体力 ○記憶力
○情報収集能力 等

非認知スキル

○思いやり ○やりぬく力
○協調性 **自制心** ○勤勉性
○意欲 ○社交性 等

【人は人を浴びて人になる】

自己肯定感・自己効力感・自己有用感、これらは現代の日本の子どもたちに足りていない、でも必要な力です。自分をまるごと受け入れ、自分を好きだ、という子どもたちに育ててほしいと思いますが、これは友だち同士、先生、保護者との関係だけでは育ちません。「人は人を浴びて人になる」ということをお忘れなさいと思います。信頼できる大人がうんと関わってあげることが大事です。そして、意図的・計画的・持続的に大人と関わることができる仕組みをつくっていく必要があります。

【大人と関わる仕組み①】

これまでの学校支援をカリキュラム化してチームで管理。地域の共有財産にしていく。

【大人と関わる仕組み②】

学校行事の見直し。地域と協働開催できる取り組みを。地域の共有財産として、チームで進行・管理。

【地域とともにある学校⇔学校とともにある地域】

人生100年時代。高齢化が進む中、高齢者（65歳以上）とつながっていかないと地域は元気になりません。社会の中で、高齢者が活躍する場がどれだけあるでしょうか。一人暮らしの高齢者の八割が「今のままでいい」と言っています。今の子どもたちがその年齢になったとき、もっともっと「今のままでいい」という人が増えるのではないのでしょうか。それで社会が成り立つのでしょうか。みんながつながって「100年後に幸せ・おもしろい」「うれしいことがたくさんある」社会になることが大事です。中学校卒業・高校卒業の15歳、18歳までしか考えていないことが多いですが、その後の人生はもっとずっと長いのです。退職後、豊かで充実した時間を過ごすために、働いている期間の余暇にどれだけ地域活動に参加し、つながりを作れるかどうか、そのことを子ども時代に知る仕組みが必要であり、その一つがコミュニティ・スクールです。

大人の学びを一番やりやすいのは実は学校です。私たちが学ぶために学校があり、町を作るために学校があります。「学校とともにある地域」地域住民にこう思われて初めて「地域とともにある学校」は成立するのです。

地域には力になってくれる人がたくさんいる、大人の学び（生きがい）にも通じる、子どもの時から大人と関わりを持っていくこととその後的人生など、生涯学習の実現という観点も学ぶことができました。

大人とかかわる仕組みをつくっていくことの重要性をつくづく実感します。人とかかわらなくても生活できる社会、希薄になっていく人間関係、その中で私たちの未来はどうなっていくのか考えさせられました。

今、日本が直面している社会の課題を乗り越えるには、やはりコミュニティ・スクールの仕組みが大切であり、小さい学校でも地域の核として残していくべきではないかと思います。

【意見交換会】

「協働活動、はじめの一步、次への一步」



後半は6～7人の小グループで、意見交換会を行いました。「地域の人と一緒に自分がやりたいことは何ですか？」これをまずは出し合ってもらいました。そして、その実現のために「具体的に自分にできることは何か」を考え合いました。

様々な立場の人たちが同じテーマで話し合うことで、今まで自分の中にはなかったアイデアがたくさん出されていました。今回、3年ぶりに参集開催で行ったことにより、人と直接話す楽しさとともに、対話をとおして新しい考え方に触れることができるよさを改めて感じていただくことができたのではないかと思います。

立場のちがういろいろな方の意見を聞けて、自分の見方が広げられるよい機会になりました。（多数）

たくさんのアイデアをいただきました。どうやって大人との関わりを作っていくのか、何かを実践していく際、やめることも同時に考えていくことも必要かなと思いました。

一緒に考え合った方々の熱い思いを感じました。ここに集まる人は皆「当事者」だと思いました。



お二人の講演、その後の意見交換会をとおして、参加していただいたみなさん一人ひとりが「当事者」として、学校や地域の協働活動について考えていただくことができたのではないかと思います。

また、YouTube 限定配信を視聴したみなさんからも、たくさんのご感想をいただきました。ありがとうございました。

地域と学校の協働活動について、ご相談がありましたら、中信教育事務所生涯学習課までご連絡ください。中信教育事務所では、地域と学校のよりよいつながりづくりをめざして、地域、学校を支援していきます！